

2025 年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会
共通論題のご案内
帝国史の新展開

日時 2025 年 10 月 19 日（日）9:30～13:00

会場 中央大学多摩キャンパス

趣旨説明

坂井晃介（神戸大学）

報告

1. ハプスブルク帝国と破碎帯——合同と併合の諸相

中澤達哉（早稲田大学）

2. 冷戦期における中国の工業化と老工業基地・中国東北——「破碎帯」から「国境緩衝帯」へ

張曉紅（香川大学）

3. イギリス福祉国家と英連邦——Brexit 決定後の動向を踏まえて

日野原由未（岩手県立大学）

コメント

1. 社会学の視点から

高谷幸（東京大学）

2. 思想史の視点から

上村剛（関西学院大学）

司会

白木沢旭児（北海道大学名誉教授）、韓載香（法政大学）

趣旨

本企画は、「帝国」を歴史的かつ同時代的な現象としていかにとらえるかを分野横断的に考察するものである。既存の国家や社会の枠組みとその動態を踏まえつつも、それを超えて発生してきた諸問題を記述し説明する上で「帝国」の残存や「遺産」、あるいはその新展開といった視座はいかに有効かが議論される。

経済史分野では伝統的に、帝国主義を資本主義の独占段階として捉える視座から、本国経済の研究が進展してきた。日本帝国に関しては、大石嘉一郎編『日本帝国主義史』（全3巻）がその典型である。しかし、近年ではこのように帝国主義を資本主義の段階としてとらえる議論が停滞している一方で、帝国日本研究が隆盛を極めている。代表的なものとしては蘭信三らの諸研究をはじめとした、帝国形成・拡大による人口移動や、敗戦・日本帝国崩壊における引揚・送還などの逆方向の人口移動にかんする幅広い研究展開がある。

こうした帝国日本研究は、19 世紀末から 20 世紀前半のいわゆる帝国主義の時代を研究対象としてきた。上述の経済史分野における帝国史的研究を発展させていくうえでも、歴史学における帝国史・帝国論の諸潮流をはじめとする議論を本学会で取り上げ、分野

横断的に議論することが必要であろう。

1990年代以降、ブリテン帝国史（とりわけそこにおける「新しい帝国史」）が提起してきたように、ある政治体の歴史を描くうえでは、本国のいたるところに「帝国の痕跡」が見出されることを踏まえなければならない——すなわち「中心」と「周縁」の歴史を別個に描くことはほとんど不可能である——ことが強調されてきた。しかもこうした「中心」と「周縁」の複雑な連関は、固定的な支配—被支配関係ではなく、よりフレキシブルな関係であることが含意され、同時に、政治経済といったマクロなレベルのみならず文化やアイデンティティなどミクロなレベルでも生じているとされる。

このような帝国史研究の展開においては、冷戦の終焉やアメリカ同時多発テロ、そして今日ではロシア・ウクライナ戦争およびイスラエル・パレスチナ紛争の激化などについての同時代的な関心が、「帝国」を再考し歴史的に位置づけ直す主導的な契機の一つとなってきた。その背景には、現代的諸状況を理解する上では、政治体制や社会構造の歴史的な転換を踏まえつつも、その時間的な経路依存性を考慮しなければならないのであって、その要素の一つには「帝国」がある、という想定があるように思われる。

「帝国」を捉え直すうえでは、時間的かつ空間的な視座からの考察が不可欠である。すなわち第一に、植民地支配などを通じて旧体制により生み出された諸制度等の積極的あるいは消極的な継承は、現代社会のグローバルな現象といかに連関しているのか（「遺産」としての帝国史）。第二に、メトロポールの政治経済的構造そのものだけではなく、従属的な立場にあった帝国内の周辺領域や、諸帝国が衝突する「破碎帯」をいかに帝国の歴史として描き直すのか（「破碎帯」としての帝国史）。この二つの課題は相互に連関しており、その解明のためには、脱植民地化やポストコロニアリズム、グローバルヒストリー等の視座を踏まえつつ、歴史学、政治学、社会学、思想史など複数のディシプリンの成果についての領域横断的な対話から、批判的にアプローチしていかなければならない。

以上のような論点から本企画では、中澤達哉氏からは「破碎帯」をキーワードとした東欧史分野を中心とする帝国史研究の最新の動向について、張曉紅氏からは帝国論的な視座による中国東北地方の工業化の歴史的展開について、日野原由未氏からは「帝国の遺産」の新たな動向であるブレグジット以降のイギリスにおける福祉国家と移民政策の現状について、ご報告いただく。この三報告に対し、人の移動と移民、脱植民地化に関する社会学的視点から高谷幸氏に、グローバル思想史と「帝国」の視点から上村剛氏にコメントをお願いした。専門分野だけでなく、時代も地域も異なる対象を「帝国」という概念のもとで論じていくことの限界と可能性について議論を深めたい。

文献

Bartov, Omer and Eric D. Weitz eds. 2013, *Shatterzone of Empires: Coexistence and Violence in the German, Habsburg, Russian, and Ottoman Borderlands*, Bloomington, Indiana University Press.

池田嘉郎・杉山清彦・中澤達哉, 2024, 「〈討議〉帝国論の新展開」『思想』1203.

木畑洋一, 2012, 「帝国と帝国主義」木畑洋一・南塚信吾・加納格, 『帝国と帝国主義』有志舎.